

【高等学校用】

令和6年度学校結果・学校関係者評価

様式1(高等学校)

学校名	佐賀県立太良高等学校
-----	------------

達成度(評価)
A:十分達成できている
B:おおむね達成できている
C:やや不十分である
D:不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 研修会や講演会を通して、生徒の特性に対する教職員の理解を深めることができた。今後も特別支援教育の専門性向上に努めていきたい。 いじめの未然防止及び早期発見・早期対応に努めることにより、安全安心な学校生活の確保に取り組むことができた。 学校運営協議会も2年目を迎え、委員の構成等の見直しを進めた結果、活発な意見交換がなされ、先駆的な取り組みを行うことができ、より充実した一年となつた。 体験学習などこれまでの地域とのつながりを継続しながら、唯一無二の誇り高き高校づくりに取り組むことができた。 太良町文化祭やSAGAコラボレーションスクール成果発表会など、学校外への広報活動を積極的に進めることができた。研修会や講演会を通して、生徒の特性に対する教職員の理解を深めることができた。今後も特別支援教育の専門性向上に努めていきたい。
------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<p>インクルーシブ教育を通して、他者を思いやり、多様性を認め合うことのできる豊かな心を育み、すべての生徒が安心して学べる学校の実現を目指す。</p> <p>・太良町との協働的な学びや体験活動を通して、主体的に学び、共に生きていく心を育て、地域社会に貢献できる人材を育成する。</p>
----------------------------	--

3 スクール・ポリシー	<p>アドミッション・ポリシー</p> <p>1 強みを伸ばし、自立したいと強く願っている生徒</p> <p>2 地域に積極的に関わりたいと思っている生徒</p> <p>3 社会に貢献できるようになりたい生徒</p>	<p>カリキュラム・ポリシー</p> <p>1 地域と連携・協働し、創造する力を育てる教育課程を設定します。</p> <p>2 様々な体験活動を通して、主体的に行動する力を育てる教育課程を設定します。</p> <p>3 他者を認め、自己を知るために、教育活動の中で、互いに学び合う場を設けます。</p>	<p>グラデューション・ポリシー</p> <p>1 答えのない問題に向き合い、新たな価値を生み出す創造力を育成します。</p> <p>2 自分で考え、主体的に行動する、責任ある行動力を育成します。</p> <p>3 他者を尊重し、対立を克服する調整力を育成します。</p>	4 本年度の重点目標
-------------	--	---	--	------------

5 重点取組内容・成果指標	最終評価	学校関係者評価	主な担当者
---------------	------	---------	-------

①共通評価項目		重点取組	最終評価	学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的な取組	達成度(評価)	評価	
●学力の向上	○生徒個人の能力や特性に応じたきめ細やかな指導の充実	○授業研究期間の年間2回以上の実施 ○ICT機器等を活用した授業を心掛けた教員90% ○1年生の授業を中心に、AI副教材「すらら」を活用した「学び直しの時間」を取り入れた授業を実践した教員80% ○授業評価アンケートの中で「授業内容が分かった・理解できた」と回答する生徒が80%以上を目指す	・少人数指導、習熟度別指導、チームティーチング、リメディアル教育を通して、自習時間を利用して「すらら」を取り入れた学び直しの時間を導入した。 ・プリント教材の精算やAIドリルを含めたICT機器の効果的な活用を進め、生徒の学習への動機づけを図る。 ・生徒の学力は様々ため、AI副教材「すらら」を活用することで生徒一人ひとりの学力にあつての学習を授業の内容や、朝の時間などを活用して、授業プリントの精算を行い、全員が分かれるできる授業を行う。 ・授業プリントの精算を行い、全員が分かれるできる授業を行う。 ・生徒がつづいた感想を具体的に把握し、次回の授業に役立てる。	A	<p>・1年生を中心に朝のHRの時間や、一部の授業、自習時間を活用して「すらら」を取り入れた学び直しの時間を導入した。 ・「ペーパーランダム」では、AIドリル「すらら」を活用したり、不登校生徒に対するオンライン授業を行ったりして、個々に応じた学習を取り組み、すべての生徒が「わかりやすい」「ややわかりやすい」と回答した。(数学科) ・すべてのプリントなどをふたつり、複数教材を多用したことで、生徒が理解し、興味関心を高めた工夫を行った。(地歴公民科) ・国語科、英語科 ・PowerPointを使用し、視覚的に教材等を提示し、わかり易い授業を心がけ実施した。また、teamsを活用し、課題を出し、生徒と双方向のやり取りを行った。(保健体育科) ・グループワークや実習、演習を多く取り入れ、95%の生徒が授業に積極的に参加していると感じている。(家庭科)</p>	教務主任 進路指導室主任 各教科主任
	○多様な評価方法に対応できる指導方法の研究実践	○多様な学び(UDL)の研究に取り組んだと回答した教員90% ○生徒が「授業が分かり易い」と回答した割合が85%	・「主体的、対話的で深い学び」の実現のための教材開発・授業実践を推進する。 ・「できる授業」の研究期間のみならず、相互研修のための授業研究会を年間2回以上実施する。	A	<p>・6月、12月に研究授業週間を設け、同教科のみならず他教科の参観を実施した。また、8・9月にはメタバースを活用したオンライン授業を実施し、ICTを活用した工夫した授業も見受けられ、多くの教科で今後参考となる取り組みになった。また、11月からは不登校生徒を対象としてオンライン授業の実施、評価方法の検証などをを行い、今後も検証を続けていく。 ・基礎学力を試す「基礎力診断テスト」を実施し、生徒の変化や成長を確認する機会を作ることができた。</p>	教務主任 企画研修部主任 (できる授業担当者) ICT利活用推進リーダー 進路指導室主任
●心の教育	●生徒が、自他の命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育推進教師を中心とする道徳教育推進のための職員研修会1回以上実施 ○Q&E等を活用した生徒面談1回以上実施	・人権尊重のための講演会を実施する。 ・「情報」やHR活動を活用した情報セキュリティ、情報モラル教育を実施する。 ・Q&E等を活用した生徒面談1回以上実施	A	<p>・学年集会や生徒指導講話、ホームルームを通して人権教育を行った。 ・毎週の学年会や毎月の生徒支援委員会の中で、十分な生徒の情報共有を行い、生徒理解・特性理解を深め、支援内容を検討した上で、支援を行った。</p>	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 「情報」担当者 生徒支援部副主任 各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○佐賀県いじめ防止基本方針の理解及び組織的な対応の実践	・学校生活アンケートを年2回以上実施する。 ・いじめ防止に関する保護者のへの啓発活動を充実させる。 ・いじめ防止に関する職員研修会を実施する。 ・生徒の様子に気配り、生徒の話を聞く中で、早期発見、早期対応に努める。	A	<p>・年2回学校生活アンケートを実施した。記載があった内容については、いじめ対策委員会を実施し、組織的に対応できた。 ・事案については、全て複数の職員で対応し、保護者との情報共有も徹底でき、早期発見、早期対応ができた。</p>	生徒支援部副主任 生徒支援部副主任 各学年主任
○ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒80% ○体験学習やボランティア活動を通して、「地域の方とコミュニケーションをとることができる」と感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒60%以上	・「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒80% ・郷土の人材を活用した講演会・体験授業を実施する。 ・地域の人々と関わる体験学習やボランティア活動の実践	・郷土学習の授業では県内の伝統ある場所に赴き、佐賀県の文化や郷土資料等を直接見に行くなど、教科書だけでは学ぶことができない学習を取り組んだ。後期は、講演会を開き、全校生徒に向けた教育活動を行った。 ・HOT Challengeの実践を通じ、住民との触れ合いが深まったと感じた。次年度の更なる成長を期待したい。	A	教務主任 企画研修部主任 (さがを誇るに思ふ教育の推進講演会担当者) 生徒会議員担当者 各学年主任	

5 重点取組内容・成果指標	最終評価	学校関係者評価	主な担当者
---------------	------	---------	-------

①共通評価項目		重点取組	最終評価	学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的な取組	達成度(評価)	評価	
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	●規則正しい生活習慣(起床、就寝等の時間)を身につけ、十分な睡眠時間の確保65%以上	・年2回の健康調査を通じ、自己の体調管理を把握させる。 ・講師を招き、健康教育を充実させる。 ・保健だよりや集会等の講話を通じて、望ましい生活習慣の啓蒙を図る	A	<p>・健康調査を2回実施し、睡眠時間6時間以上の生徒は71%だった。</p>	保健主任 養護教諭 食育推進担当者
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●栄養バランスの良い食事はどんなものか」を理解している生徒70%以上 ●健康と食事との望ましい関係について理解している生徒70%以上 ●健康のために食生活の工夫を実践している生徒65%以上	・食事・健康に関するアンケートを年2回実施し、健康教育を充実させる。 ・保健だよりや集会等の講話を通じて、望ましい食習慣や食の自己管理能力への意識を高める。	A	<p>・健康調査を2回実施し、以下の結果を得た。 ・栄養バランスの良い食事はどんなものか」を理解している生徒93%以上 ・健康と食事との望ましい関係について理解している生徒100% ・健康のために食生活の工夫を実践している生徒83%以上</p>	保健主任 養護教諭 食育推進担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年次休暇を年15日以上取得する。 ●実効性のある月曜日、金曜日を定期的に設定する。	・定期退勤日を設定する。(毎月月曜・金曜) ・学校閉園日を設定する。(8月9日～16日) ・年次休暇を年15日以上取得する。	B	<p>・定期退勤日を月曜日とし、朝礼で呼びかけた。 ・1月9日の時間外在校等時間が90時間/月の職員はいなかつた。また、全体の45時間/月以上は19名(昨年対比17名減)で、平均22.44時間(昨年対比22.5時間)であった。 ・年次休暇については、12月末までに15日の年次休暇を職員に呼びかけており、12月末現在で一人当たりの平均取得日数は14日3時間7分である。今後もワークライフバランスの重要性を呼びかけ、快適な環境づくりを推進していく。 ・部活動休養日については、各部活動とも適切に取得できている。</p>	管理職
	●特別支援教育の充実	○学習面や生活面で様々な困り感を抱える生徒へのきめ細やかな支援や相談の充実	・授業におけるUDLに基づいた教育的配慮による教育課程 ・特別教育支援員による授業時の支援、観察が十分にできたり、生徒の状況等の把握がよりできるようになつた。 ・特別教育支援員による通常の学級での支援を必要とする生徒に対する補助的な支援	A	<p>・特別教育支援員はなくてはならないと思う。必要な人數を配置してほしい。 ・本年度は生活に困った生徒(世帯)に、組織的に対応した経緯があった。学校側の迅速で本人に配慮した対応が素晴らしい。</p>	保健主任 生徒支援部副主任

②年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組	最終評価	学校関係者評価	主な担当者
-------------------	------	------	---------	-------

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的な取組	達成度(評価)	評価	
●唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を85%以上、教師の割合を5%以上 ★県外からの入学者数8人以上	・地域・企業等と協働した学校運営を行う。 ・魅力ある教科プログラムを実践する。 ・生徒会を中心とした委員会を立ち上げ、生徒が自分たちで考え、様々な取り組みをすることで、高校魅力的な取組を推進する。 ・SNS等を活用し、学校の魅力を積極的に発信する。	A	<p>・地域連携型のカリキュラムHOT Challengeで4名の生徒がボランティア活動での単位を修得した。 ・学校HPの定期更新、YouTubeへのLive配信を含めた動画の投稿、Instagramの新規立ち上げ等SNSを活用した学校の魅力発信を行った。 ・「たららフレンズ」や「たらタラ」など生徒主体の活動が活性化し、魅力ある学校づくりにつながった。</p>	企画研修部主任 主幹教諭
	○広報活動の充実	○魅力的な情報発信の継続 ○中学校、保護者、地域社会から信頼を得るために取組の推進	・学校通信「HOT通信」			